

2026年6月12日

QCサークル本部幹事長 山ノ川 孝二

第3回事務・販売・サービス〔含む医療・福祉〕部門 グランドチャンピオン大会審査結果発表時の説明

各支部推薦の18サークルの皆さん、発表、お疲れ様でした。今日の本番はもちろん、本番に向けての準備も大変だったことと思います。発表に向けての準備にご協力、ご支援いただいた皆さんも含めて、誠に有り難うございました。

いずれのサークルも、支部推薦を受けて出場いただきましたが、それぞれに他の範となるべき活動を行っていることは言うまでもありません。最優秀賞、優秀賞のいずれであっても、受賞によって、更に、活動の良いところを伸ばし、活動の継続とレベルアップをめざしていただくこと期待しています。

グランドチャンピオン大会は、2024年にJHS全日本選抜大会から衣替えをし、今回3回目の開催となります。大会の趣旨はJHS部門の活動の普及・活性化をめざして、臨機応変のメンバー編成、テーマ選定を行うことが一般的なJHS部門には、運営も大事にはしながらも、改善事例を前面に出して、活動内容を発表いただく機会を提供することです。従って、審査、表彰基準もその趣旨に合せたものになっています。

さて、本日の18サークルの発表ですが、いずれも、各支部推薦により、支部代表の荣誉あるファイナリスト、いわゆる決勝進出者に相応しい発表でした。

審査委員会としましては、事前に提出された「支部からの推薦書」「要旨集」「ワンポイントシート」を読み込んだ上で、本日の各サークルの発表を聴かせていただきました。

審査基準は、本部長賞の応募規定の審査基準にあります通り、

- (1) 改善内容 60点
- (2) 活動の継続性・発展性 20点
- (3) 発表内容の分かりやすさ 20点
- (4) 上記以外の観点 (10点以内) です。

最後の「上記以外の観点」ですが、これはグランドチャンピオン大会が想定している事務・間接部門、更には日本の産業の4分の3を占めるサービス業は、極めて多様性が高いと思いますので、目からうろこ、コロブスの卵のように、「そんなやり方もありますね」といった予想外の創意工夫があり得ることを想定して、「多様性」「新規性」「先進的取り組み」を評価するためです。全体100点は変わりませんが、10点以内で加点があり得るということにしてあります。

各サークルの発表は、内容的には、それぞれ、創意工夫された活動により、確かな成果を挙げており、サークルの運営や、その活動及び成果は甲乙つけ難く、いずれのサークルも、これからのサークル活動の参考になる取り組みやヒントにあふれていました。

審査に当たっては、各サークルが、限られた説明時間と資料によってではありますが、特に、改善活動のPDCAサイクルをどう廻し、どのように成果をあげたかを、結論だけではなく、テーマ選定、改善活動、成果の確保といったプロセス、そして、活動によってメンバーやサークルがどう成長し、今後の活動の継続性・発展性にどう繋がっていくかが分かるように、論理的に分かりやすく説明していただけたかを審査させていただきました。

発表は、サークルによっては、時間の制約、配分からか、テーマの選定や活動の成果について、その取り組みの背景やプロセスの説明が、情報やデータという面で必ずしも十分でなく、分かり難かったりするところがありました。

そして、活動の継続性・発展性については、改善事例を前面に出した報告であっても、活動によってメンバーの技術や能力がどう向上し、サークルがどう成長したかという視点が必要ですが、残念ながら、説明が不足しているサークルもありました。

しかし、それぞれのサークルが様々な工夫しながら、しっかりと取り組んできた成果にあふれていました。

本日の発表全体について印象に残ったことをいくつか申し上げたいと思います。

1つ目は、新しい時代の到来を実感させる発表内容であったことです。

DXが提唱されてから20年以上経過し、昨今はAIの爆発的な進化がビジネスも生活も大きく変えていく時代になりましたが、各サークル活動の中にも、AIの取り込み、各種アプリ、ツールの活用が積極化、活発化していることがよく分かりました。こうした手段の近代化の下、あくまでも主役は人間ですが、QCサークル活動が益々ブラッシュアップしていくことを期待したいと思います。

2つ目は、JHS部門として、多様(※)で、チャレンジ精神に満ちた活動内容の発表であったことです。

それを楽しみながら、面白がりながら活動されていることが感じられました。発表中は緊張もあり、少し固さのある方もいらっしゃいましたが、日常の活動はきっと楽しく、イキイキとやっておられるのではないかと思います。ぜひ、2026年度QCサークル本部スローガンを受けて新しくなった大会テーマにある通り、サークルの皆さんには「楽しみ、喜び、面白く」活動していただきたいと考えています。

(※) 業務内容が異なるメンバーでの活動、複数部門・拠点にまたがる活動、所属部署の異なるメンバー構成など、JHS部門らしい多様なバリエーション

私の印象以外に、皆さまも、各サークルの活動の中から、ああ、なるほど、こういうやり方もあるんだという発見があったことを願っています。

「最優秀賞」、「特別賞」の主な授与ポイント（日科技連HP掲載）

賞名	授与サークル	主な授与ポイント
最優秀賞	いきいき鮮魚	会社方針「おいしさがドまん中大作戦!!」を自分事として主体的に捉え、研修で学んだISM（売り場の統計的・科学的戦略による購買意欲向上）、更には、I E手法を QCC 活動に取り入れて、顧客の行動等を各種測定ツールできめ細かく分析しています。そうした科学的アプローチに基づき、再現性の高い対策を講じて、目標を達成するとともに、多技能化も推進されており、経営に大きく貢献されています。
	ニコラボ	「禁煙」という社会課題に対応して、上位方針の「全社禁煙目標率 25%の達成」を掲げ、禁煙という人の行動変容を伴う難しいテーマに着目し、メンバーの意識改革や職場風土の改善に取り組まれた点を高く評価します。設備や仕組みの改善とは異なり、人の意識や行動を変えることは容易ではありませんが、創意工夫を凝らした活動により高い成果を上げています。独創性と社会的意義に富んだ大変興味深い取組みであり、いろいろなテーマがQCサークル活動の対象となることを改めて認識できました。
特別賞	テクノロジーX	上位方針に基づき改善提案書の完全ペーパーレス化に挑戦され、Power Automate をベースとした独自のワークフローシステムを構築して、目標を達成されました。その改善プロセスにおいては、成功シナリオの追究が徹底しており、システム構築中の度重なるエラーにもめげず、システム完成を成し遂げています。また、QC活動記録、休暇申請への活用、他部署、更に親会社への提案等、成果の水平展開、普及に努めていることを評価します。